JForest

# 白神森林組合だより

2017.8
Vol.35

■発行／白神森林組合　〒016−0814 能代市能代町字中川原33−45　Tel.0185-54-9300　Fax.0185-54-9302　E-mail：shirakami@shiramori.or.jp　HPアドレス http://www.shiramori.or.jp/

平成29年 7 月27日㈭～28日㈮開催、第11回森林組合トップセミナー・森林再生基金事業発表会（農中森力基金事業）当組合発表場面。

発表者
森林活用課長：金谷　文彦（写真右）
係　　長：佐藤　恒人（写真左）
ヒルトン東京お台場にて

**白神森林組合**

| 本・支所名 | 電話番号 |
|---|---|
| 本　　所 | 0185−54−9300 |
| 能代支所 | 0185−54−7402 |
| 八峰支所 | 0185−77−2132 |
| 三種支所 | 0185−84−2030 |
| 藤里支所 | 0185−79−1562 |
| 二ツ井支所 | 0185−73−2938 |
| 木材流通センター | 0185−59−2605 |
| 二ツ井加工場 | 0185−73−5818 |

CONTENTS

P2……農中森力基金事業
P3……総代会～組合長あいさつ
P4……総代会～事業報告
P5……総代会～事業計画
P6……総代会～損益計算書・計画、外
P7……木材市況動向・組合員へのお知らせ
P8……林業コンクール・原木輸出へチャレンジ

平成 28 年度 公益信託 農林中金森林再生基金（農中森力基金）事業

# 国の宝「秋田杉」の復権を目指して

## ～ 放置林を解消し、秋田杉の聳（そび）え立つ森林を復活させる ～

天然秋田杉の里と呼ばれている当白神森林組合管内でさえ、林業採算性の悪化から森林所有者の経営意欲は減退し、放置林が急増している。

森林の有する公益的諸機能を持続的に発揮させ、経済性を確保しつつ将来に繋がる森林経営を継続して行くためには、森林所有者の同意を得ながら、天然秋田杉のような品質の素材を見込める超長伐期林を目標に定め、地利・地況に適した方法で、作業道の整備と高性能林業機械の活用による低コストの搬出間伐（定性・列状・群状）を行うことで森林整備を進めて行くことがこの地域に適していると考えている。

当該基金事業の取組から得られた成果を活用して放置林の解消に向けた事業を展開し、地域森林の一体的整備と地域経済の活性化に貢献できるよう努めて参ります。また今後も育成経過の調査を続けながら、最適な育林モデルを確立し、国の宝「秋田杉」の聳（そび）え立つ森林を復活させて参ります。

定性間伐

間伐作業

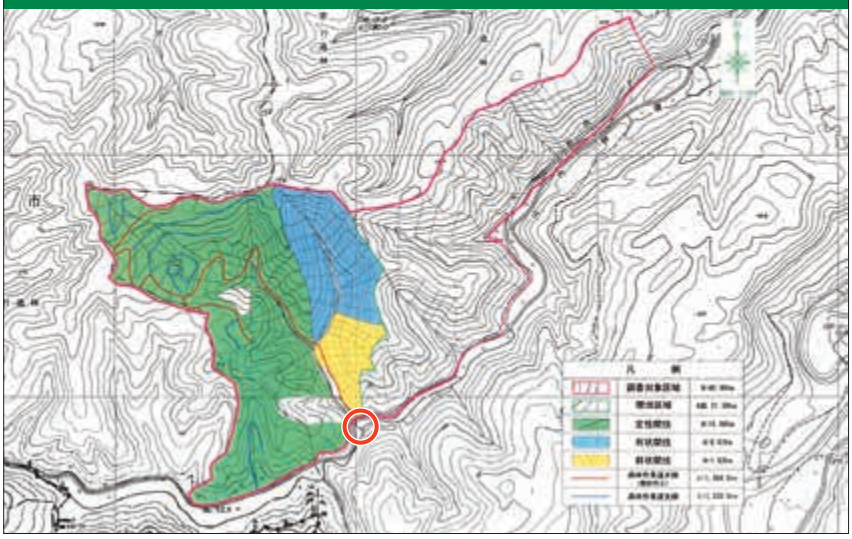
列状間伐

森林作業道（本線）

群状間伐

森林作業道（支線）

## 施　業　図（能代市二ツ井町小掛字山内団地）



## 位　置　図

# 第23回 通常総代会

第二十三回通常総代会は五月二十九日、能代市元町のキャッスルホテル能代で、総代一九〇名の出席（本人出席一一〇名、書面議決八〇名）を得て開催されました。

議事に先立ち、金野組合長が挨拶をした後、来賓を代表して、能代市鈴木一眞副市長、山本地域振興局河越博之農林部長、米代西部森林管理署新屋敷哲也署長、秋田県森林組合連合会髙橋悟森林整備課長の四氏からご祝辞を賜りました。

議長には下岩川地区の佐藤勝雄氏が選出され、全ての提出議案が満場一致で原案通り可決承認されました。

## 組合長 あいさつ

代表理事組合長 金野忠徳

わが国の経済も第二次安倍内閣が発足して四年半となり、大胆な金融緩和、財政出動などにより、円安、株高が進み、経済も一定の水準まで回復したと言われていますが、景気が地方の我々のところまで来るには、未だ暫く時間が掛かるようです。

このような情勢のもと、平成二十八年度の事業も終わり、境界の明確化、放置林の解消、大型林業機械の有効活用、更に農林中央金庫「森力」基金の助成などの事業も順調に進み、前年度を上回る実績で終ることが出来ました。

その結果、事業総収益は八億五千三百万円となり、前年度の七億五百万円よりも一億四千八百万円の増となりました。これも偏に組合員の皆さんのご協力と、ご来賓の方々のご支援によるものであり、あらためてお礼を申し上げます。

次に今年度の事業計画についてですが、経営計画の拡大、間伐皆伐など、前年度と同様ではありますが、新しい事業として原木丸太の輸出について本格的に取り組みます。

現在、秋田県の伐採量は一二〇万㎥で推移していますが、県では平成三十二年度までに一四〇万㎥まで伸ばす方針です。

しかし、日本の住宅事情は、現在年間九〇万戸代の新戸住宅も、平成三十二年以降になると六〇万戸代にまで下がると予測されています。そのため、増える分の丸太の売り先を新たに外国へ輸出しないと我々の林業は成り立たなくなります。

このような見通しのもと、今年の三月に県北地区の素材生産事業者十五社と三森林組合が中心となって「再造林の推進」「原木の新たな販路の開拓」を目指して「県北地区森林・林業活性化協議会」を立ち上げました。この会の目的は、森林所有者と林業従事者の所得向上を目指すものであります。

挨拶をする金野組合長

国では平成三十年度に新たに「森林環境税」を導入し、地球温暖化の防止等、公益的機能を発揮させるため、森林の「境界の明確化」や「林地台帳の整備」を図ることとし、その作業を市町村で進めるように指導することになりました。これに掛かる経費を捻出するため年間五〇〇億円の予算を平成三十年度の税制改正で提案することになっています。

結びになりますが、総代の皆さんには、今年度の事業計画、予算案を満場一致で承認、可決して頂けるようお願いするとともに、ご来賓の方々には引き続きご指導ご協力を賜りますようお願いを申し上げ、開催の挨拶といたします。

本日は誠に有難うございました。

議長を務めた下岩川地区の佐藤勝雄氏

〈関連記事次頁につづく〉

# 組合の主要な事業活動

平成二十八年度、秋田県は、「ウッドファースト社会」の実現に向け大きな一歩を踏み出し、それに呼応し、森林組合系統においても、新たなる系統運動「JForest　森林・林業・山村未来創造運動～次代へ森を活かして地域を創る～」を展開し、「施業の集約化と先進技術の活用等による効率的な事業基盤の整備」、「系統のスケールメリットを活かした国産材安定供給体制の構築」、「組合員・社会に信頼される開かれた組織づくり」という目標を掲げました。

沢山の来賓の皆様

このような情勢の中で実施した、当組合の事業は、「森林境界明確化と放置林整備施業の促進」、「経営計画認定森林面積の拡大と施業の円滑実施」、「高性能林業機械の活用と素材生産事業の推進」そして、秋田県内で二例目の事業承認を受けた「農中森力基金事業の実施」の四点を重点項目として事業展開を図りました。

その結果、主力事業である「販売部門」は、導入した三台の高性能林業機械利用による素材生産量及び補助事業の搬出間伐事業の伸びが影響し、計画対比一〇三%、前年対比一一四%の取扱高を、同じく主力事業の「森林整備部門」では、皆伐後の再造林事業を含む森林整備、及び松食い虫防除事業、農中森力基金事業実施による作業道工事事業の伸び等により、計画対比一四二%、前年対比二二七%の取扱高となり、総収益は、平成二十一年度実績以来の取扱高八億円を超え、八億五千万円を超える取扱高となり、合併後最高となる五、二〇〇万円超の未処分剰余金を計上、同じく合併後初となる「出資配当」を提案、承認されました。

又、組合員数についても、前年対比十二名増の四、三一三名となりました。組合員数の増加は、秋田県内十二組合の中で、当組合のみであり、組合員の皆様の、当組合に対する深いご理解とご協力の賜物であると心から感謝致します。

昨年八月の改選により、役員については、新たな執行体制となりましたが、ユネスコ無形文化遺産として登録された「協同組合」の一員として、「組合員の経済的・社会的地域の向上、並びに森林の公益的機能の発揮」という目的を忘れずに、今後も組合員と共に歩んで参ります。

議案に賛成挙手をする出席総代

## 提出議案

**議案第一号**　平成二十八年度業務報告書の承認について

**議案第二号**　平成二十九年度事業計画書の決定について

**議案第三号**　平成二十九年度一組合員に対する貸付金の最高限度について

**議案第四号**　平成二十九年度借入金の最高限度について

**議案第五号**　平成二十九年度理事及び監事の報酬決定について

**議案第六号**　平成二十九年度債務保証の最高限度について

**議案第七号**　余裕金の預入先金融機関について

**議案第八号**　出資配当金の増資について

**議案第九号**　退任役員に対する慰労金の支給について

# 平成二十九年度 事業計画

平成十四年に過去最低の一九％まで低下した木材自給率だが、林業の成長産業化を目指す施策によって、平成二十三年から五年連続で上昇し、平成二十七年には三三％まで上昇するなど、数字的には、国産材の利用が勢いを増してきている状況にあります。

しかし、山元立木価格の長期にわたる低迷や、それに伴う森林所有者の経営意欲の低下等、依然として厳しい状況にあり、適切な管理・経営が行われない森林が増加することで、山の循環が滞り、人工林の齢級構成も著しく偏っている現状にあります。

このような情勢の中での平成二十九年度については、新たなる系統運動「Forest 森林・林業・山村未来創造運動～次代へ森を活かして地域を創る～」の運動により、当組合においても「主伐地に対する再造林の確実な実施」、「施業集約化の推進」、「生産性の向上と低コスト林業」等の五年間の目標を設定しております。

その初年度である本年度において、販売部門では、「施業集約化による受託間伐事業の推進」として、前年度計画対比一一七％の取扱高を、森林整備部門では、「管内全市町での森林境界明確化事業の実施及び森林経営計画樹立面積の拡大」として、同じく前年度計画対比一〇七％の取扱高を重点項目として計画し、事業展開して参ります。

又、本年三月に、県北地区の素材生産業者及び森林組合が中心となって、持続可能な循環型林業、及び森林所有者並びに林業従事者の所得向上を目指す「県北地区森林・林業活性化協議会」を立ち上げ、「再造林の推進」、「原木の新たな販路開拓も含めた木材価格の上昇及び需要拡大」等、組合員の皆様に直結した、森林・林業の活性化に向けた取組を進めて参ります。

今年度も、組合員の皆様からの、特段のご指導、ご協力を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

## 指導部門

組合員の意見要望を的確に把握し、組合事業及び地域の抱える課題の克服に努めるため、組合員に対し組合の経営状況等を正確に報告するとともに、有益な森林情報を提供することで組合員の林業経営に役立ててもらう事を目的とした、「組合員研修会と地区座談会の充実」を今年度の指導部門の重点項目として取り組みます。

安全衛生大会及び安全衛生委員会を開催し、役職員全員が一体となって「労働災害ゼロ」を目指します。

## 販売部門

「施業集約化による受託間伐事業の推進」のため、高性能林業機械オペレーターの技術向上、森林施業プランナーの木材流通および販売に関する知識の向上を図り、採材方法の工夫による木材の有利販売及び低コストな素材生産事業実施により、組合員への利益還元に努めます。

昨年に引き続き、主伐適齢期に達した森林について、皆伐再造林一貫作業システムを提案し、資源の循環利用の促進に努めます。

## 加工部門

昨年度同様、春季と秋季の季節限定操業で、組合員の皆様には御不便をおかけしますが、安全衛生に心掛けた缶詰委託加工事業を実施します。

## 森林整備部門

**一 森林整備事業**

森林の持つ多面的機能の維持・向上を図りつつ、資源の循環利用を推進するため、森林施業プランナー十六名が中心となって地域の施業集約化や路網整備により生産基盤を強化し間伐や主伐後の再造林等の森林整備を推進します。

また、森林研究・整備機構による水源林事業の外、森林管理署や市町から発注される森林整備事業も受注し、地域全体の森林保全に貢献して参ります。

**二 利用事業**

①GPS・GISを積極的に利用し、今年度も森林整備地域活動支援交付金の「経営計画作成促進」「境界の明確化事業」を活用して、放置森林の解消に努め、森林経営計画を作成して施業実施に繋げます。

②県や市町、森林管理署から発注される「松くい虫防除関連事業」に参加し、組合の持つ高い施業技術力、豊富な施工能力を発揮することで、松くい虫被害の拡大防止に努めます。

又、当管内で広がりつつある「ナラ枯れ」については、被害のまん延防止のため関係機関と連携し監視体制の強化に努め、未然防止の為の広葉樹伐採（更新伐）を推進します。

③組合員の財産保全のため、森林保険の普及と加入促進を図ります。

**三 購買事業**

購買事業については、系統利用による林業資材を安定供給致します。

**四 金融事業**

貸付金の回収と担保森林の保全管理に努めて参ります。

# 平成28年度 損益計算書
# 平成29年度 損益計画

## 平成28年度　損益計算書

平成28年４月１日から平成29年３月31日まで　（単位：千円）

| 科目 | 小計 | 合計 |
|---|---|---|
| Ⅰ 事業総損益 | | |
| 1 事業総収益 | 852,979 | |
| 2 事業総費用 | 676,725 | |
| 事業総利益 | | 176,254 |
| Ⅱ 事業損益 | | |
| 1 人件費 | 92,382 | |
| 2 旅費交通費 | 3,223 | |
| 3 事務費 | 437 | |
| 4 業務費 | 2,764 | |
| 5 諸税負担金 | 2,755 | |
| 6 施設費 | 13,469 | |
| 7 雑費 | 1,265 | |
| 事業管理費計 | | 116,295 |
| 事業利益 | | 59,959 |
| Ⅲ 経常損益 | | |
| 1 事業外収益 | 3,392 | |
| 2 事業外費用 | 1,094 | |
| 事業外損益 | | 2,298 |
| 経常利益 | | 62,257 |
| Ⅳ 特別損益 | | |
| 1 特別利益 | 343 | |
| 2 特別損失 | 714 | |
| 特別損益 | | ▲ 371 |
| 税引前当期利益 | | 61,886 |
| 法人税、住民税及び事業税額 | | ▲12,000 |
| 当期剰余金 | | 49,886 |
| 前期繰越剰余金 | | 3,077 |
| 当期未処分剰余金 | | 52,963 |

## 平成29年度　損益計画

平成29年４月１日から平成30年３月31日まで　（単位：千円）

| 科目 | 小計 | 合計 |
|---|---|---|
| Ⅰ 事業総損益 | | |
| 1 事業総収益 | 766,456 | |
| 2 事業総費用 | 626,776 | |
| 事業総利益 | | 139,680 |
| Ⅱ 事業損益 | | |
| 1 人件費 | 94,517 | |
| 2 旅費交通費 | 3,418 | |
| 3 事務費 | 1,701 | |
| 4 業務費 | 4,151 | |
| 5 諸税負担金 | 4,602 | |
| 6 施設費 | 18,937 | |
| 7 雑費 | 1,751 | |
| 事業管理費計 | | 129,077 |
| 事業利益 | | 10,603 |
| Ⅲ 経常損益 | | |
| 1 事業外収益 | 2,323 | |
| 2 事業外費用 | 1,395 | |
| 事業外損益 | | 928 |
| 経常利益 | | 11,531 |
| Ⅳ 特別損益 | | |
| 1 特別利益 | 0 | |
| 2 特別損失 | 0 | |
| 特別損益 | | 0 |
| 税引前当期利益 | | 11,531 |
| 法人税、住民税及び事業税額 | | ▲ 7,000 |
| 当期剰余金 | | 4,531 |
| 前期繰越剰余金 | | 5,850 |
| 当期未処分剰余金 | | 10,381 |

## 平成28年度　剰余金処分案

（単位：千円）

| 科目 | 内訳 | 小計 | 合計 |
|---|---|---|---|
| Ⅰ 当期未処分剰余金 | 当期剰余金<br>繰越剰余金 | 49,886<br>3,077 | 52,963 |
| | 計 | | 52,963 |
| Ⅱ 剰余金処分額 | | | 47,113 |
| 1 法定準備金 | 当期剰余金の5分の1以上 | 45,000 | |
| 2 任意積立金 | | | |
| 3 出資配当金 | 出資額の1% | 2,113 | |
| 4 事業分量配当金 | | | |
| Ⅲ 次期繰越剰余金 | | | 5,850 |

※　次期繰越剰余金中、教育情報資金は、2,500千円である。

## 組合員数及び出資金(H29.3.31現在)

（単位：人、口、千円）

| 資格区分 | 組合員数 | 出資口数 | 出資金額 |
|---|---|---|---|
| 正組合員 | 4,298 | 210,906 | 210,906 |
| 准組合員 | 15 | 437 | 437 |
| 合計 | 4,313 | 211,343 | 211,343 |

（注意）端数処理の関係で、合計が一致しない場合があります。

# 白神木材流通センター木材共販結果及び市況動向

## ■直近開催の木材共販結果

（第331回、入札日：平成29年７月３日）

★出品材積：1,579㎥　★売払材積：1,579㎥

★販売金額：15,558千円　★平均価格：9,851円／㎥

★共販参加者：９社　★販売者：８社　★販売率：100％

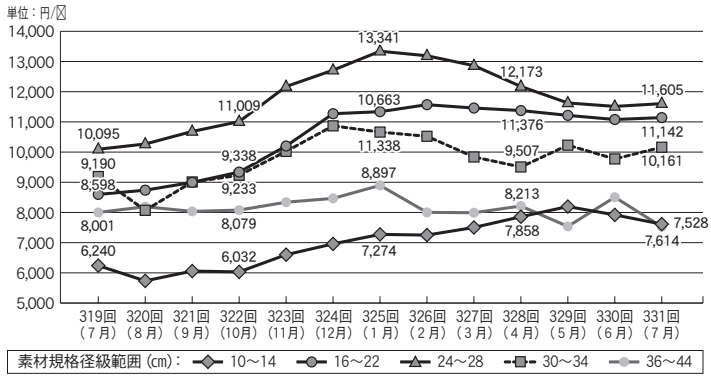
### 径級別単価の詳細

（単位：円）

| 径級範囲（cm） | １㎥単価 | | | | 石単価 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 安値 | 高値 | 平均 | 前月比 | 平均 |
| 10～14 | 6,996 | 7,990 | 7,614 | ↓ | 2,115 |
| 16～22 | 11,002 | 11,410 | 11,142 | → | 3,095 |
| 24～28 | 11,512 | 11,719 | 11,605 | → | 3,224 |
| 30～34 | 9,812 | 11,601 | 10,161 | → | 2,823 |
| 36～44 | 7,528 | 7,528 | 7,528 | → | 2,091 |
| 46～ | | | | | |

## ■平均販売単価の月推移

第319回共販（開催月：平成28年７月）～第331回共販（開催月：平成29年７月）




〈共販概況〉

１．価格状況：全体の平均販売単価は9,851円であった。主要４規格の値動きを見ていくと、「14cm下材」が300円程前回より下げたが、「22cm下材」、「28cm下材」、「30cm上材」の３規格は今年度に入り横ばい状態がつづいている。

２．需要状況：量産工場の引き合いが強く、落札率は100％であった。しかし、製品市況の荷動きは鈍いようで原木価格にまでは反映されていない。今後もこのような状態が続く見通しである。

３．入札状況：入札に付した29物件に９社が応札し、「落札」が29件、「不落」が０件、「無応札」が０件であった。１物件当たりの平均応札枚数は2.28枚であった。

## ■スギ合板材規格別単価

（工場着値、単位：円／㎥）

| 径級範囲（cm） | 長級区分 | |
|---|---|---|
| | ２ｍ材 | ４ｍ材 |
| 18～24 | 8,380 | 9,079 |
| 26～46 | 9,079 | 9,777 |
| 48～60 | 8,031 | 8,380 |

## ■スギ低質材（チップ材）単価

（工場着値、単位：円／㎥）

| 径級範囲（cm） | 長級区分 | 価格（円／㎥） | 搬送先 |
|---|---|---|---|
| 概ね８cm以上 | ２ｍ以上 | 5,100 | 能代港湾チップ工場 |
| | | 5,500 | 三種鹿渡チップ工場 |

※スギ低質材とは、節、曲がり、木口割れ等、品質に大きな欠点のあるスギ素材
※材積（㎥）＝重量（トン）

毎月の木材取引状況は、当組合ホームページ「http://www.shiramori.or.jp/」でご覧下さい。

## 組合員の各種届出に関してのお知らせ

**組合名義変更・組合員加入届・相続加入届・組合員住所変更届は、随時受付いたしております。**

※以上の各種手続きに関する届出用紙は、本所・各支所にありますが、ご連絡いただければ用紙を送付いたします。

## 合併後、初の出資配当!!

平成６年12月に合併して23年目を迎えました。その間、大変厳しい時期もありましたが、今年度の総代会において、設立後初めて、剰余金処分として、１％の出資配当が承認されました。

これも偏に、支えて下さった組合員の皆様のお陰と心から感謝申し上げます。

配当金は、出資予約預り金として積立て、一口に達した分は、皆様の出資金として増口されます。

皆様のお手元に、出資配当及び出資金証明書をお送りしますので、大切に保管下さい。

# 第51回 秋田県林業経営コンクール

## 1 林業経営の部

### 優良賞
（秋田県森と水の協会長賞）

富根地区協議会
会長 池端正一 氏〔能代市〕

## 2 間伐推進功労の部

### 秋田県知事感謝状

増沢自治会
会長 川村金弘 氏〔三種町〕

**※ 毎年、候補地を探しております。自薦、他薦、問いませんのでご連絡を!!**

今年3月、県北地区の森林組合と素材生産業者が中心となり、金野組合長を会長とする「県北地区森林･林業活性化協議会」を設立した。

同協議会では、原木の販路拡大を目的に、能代港の有効活用という観点から能代商工会議所の支援を受け、初の原木輸出に取り組んでいる。

組合長は「木材価格の低迷等で林業の衰退や森林荒廃が懸念される中、林地残材等を輸出する事で森林資源を有効活用し、組合員の所得向上及び林業再興に繋げたい。」として年間2万㎥の輸出を目指す。